

1 主題名 友達への注意【友情・信頼】 B 主として自分自身に関すること

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 料金不足の絵はがきをもらった時、本当のことを伝えるか伝えないか話し合うことを通して、自分の利害にとらわれず、相手の立場に立って考え、助け合おうとする心情を育む。
- (2) 教材名 「大きな絵はがき」(東京書籍「新しい道徳4」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「友情・信頼」の項目に関して中学年では、「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」としている。友達と理解し、助け合うためには、相手の立場になって物事を考えることが重要であり、そのことが信頼関係につながっていくと考える。また、中学年における発達段階の特徴として、閉鎖的な子どもの仲間集団をつくり、付和雷同的な行動が見られることがある。仲がよいからと言って、相手に合わせたり、本当のことを伝えなかったりすることは、真の友情とはいえない。そこで、相手に合わせるだけでなく、相手の立場に立って必要だと思うことは勇気を持って伝えることで信頼関係が築かれ、真の友情になっていくと気付かせたいと考え本主題を設定した。

(2) 児童の実態と教師の願い

実態調査(第4学年1組児23名) 令和3年9月13日調査

質問項目	○あなたは、道徳の学習が好きですか。
回答	・好き7人 ・どちらかというとき好き14人 ・どちらかというとき好きではない1人 ・好きではない0人 ・無回答1人
質問項目	○あなたは、どんな道徳の学習が好きですか。
回答	・1人でじっくり考える2人 ・友達の考えを聞く14人 ・役になりきる2人 ・その他1人 ・無回答4人
質問項目	○道徳の学習は、生活に役立っていると思いますか。
回答	・思う19人 ・どちらかというと思う3人 ・どちらかというと思わない0人 ・思わない0人 ・無回答1人
質問項目	○あなたは友達に注意(アドバイス)をしたことがありますか。
回答	・はい3人 ・いいえ19人 ・無回答1人
質問項目	○そのときのことをくわしく教えてください。
回答	・友達がけんかをしていて、ぼくがとめようとしたけど、けんかが続いた。 ・「もう時間だよ。」「やめたほうがいいよ。」「絵の具に水を入れすぎるとにじんじゃうよ。」

アンケート調査の結果から、多くの児童が道徳の学習について、「好き」または、「どちらかというとき好き」と答えていることが分かった。また、「道徳の学習は、生活に役立っていると思いますか。」という質問に対しても、22名が「思う」「どちらかというとき思う」と回答しており、道徳の学習に対して、児童が意欲的であることが分かった。一方、「あなたは、どんな道徳の学習が好きですか。」という質問に対しては、14人が、「友達の考えを聞く」と回答した。このことから、友達の考えを聞きながら考えを深めることは好きだということが分かった。普段の授業では、主体的に発表する児童は限られている。しかし、こちらから指名をすれば自分の考えを発表することができる児童が多数いる。これらのことから、自分の考えを友達に伝えることのよさを感じ取ることができていないと考えた。本時の学習の主題になっている、「友達への注意」に関する質問では、19人が友達に注意をしたことがないと答えた。学級生活の中においても、友達とのトラブルがあった際には、相手に自分の気持ちや考えを伝えて解決をしようとせず、教師のところへやってきて解決を求めることが多い。そこで、本時の学習では、相手の立場に立って自分の気持ちや考えを伝えていくことが、よりよい友情を築いていくということを理解させたい。また、意図的な指名をすることで多様な考えに触れることの大切さにも気付かせていきたい。

(3) 教材について

本教材は、料金不足の定形外郵便をもらった広子が、送り主である友達の正子に忠告しようかしらないでおうかと迷う話である。広子は、母の「お礼だけ言っておいたほうがいいよ」という言葉と、兄の「忠告してあげたほうがいいよ」という考えの間で揺れ動く。正子と友達として過ごした日々を思い出し、きっと分かってくれると考えて、教えることを決心した広子の心の葛藤をしっかりと見つめ、真に友達を思う気持ちについて考えることができる教材である。気付く・見つめる・深める・広げる・高める学習指導過程における発問の工夫、ICT機器の活用、思考の手助けとなる板書の構成の工夫を通して、本時のねらいに迫りたい。

4 学習指導過程

	学習活動・発問 ○基本発問 ●中心発問	予想される児童の反応	○指導上の留意点 ⑩評価
気付く	1 友達への注意に関するアンケート調査の結果をもとに話し合う。 ○あなたにとって、よい友達とはどんな友達ですか。 「よい友達関係」について考えよう。	・けんかをしない。 ・仲良く遊べる。 ・困ったときに助けてくれる。	○アンケート調査の内容について話し合うことで、ねらいとする道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る。 ○ねらいとする道徳的価値を示し、児童に考えさせたいことを明確にする。
見つめる・深める	2 教材を読んで話し合う。 ●あなたが広子と同じような料金不足の絵はがきをもらったら、どうしますか？ ①自分の考えをもつ。 ・言う ・迷う ・言わない ②全体で議論する ○なぜ、広子さんは本当のことを言ったのだろう。	【言う】 ・これからずっと間違えてしまうかもしれないから。 ・本当のことを言った方がいいと思うから。 ・お金を払い続けるのは、大変だから。 【迷う】 ・本当のことを言った方がいいと思うけれど、言ったら嫌われてしまうかもしれない。 【言わない】 ・本当のことを言ったら、もう手紙が届かなくなってしまうかもしれないから。 ・友達が嫌な思いをするかもしれないから。 ・大切な友達だから、本当のことを言った方がいいと思った。 ・本当のことを伝えた方が、正子さんのためになるから。 ・正子さんが他の友達に嫌われてしまったらかわいそうだから。	○スカイメニューのポジショニング機能を活用し、考えを対比させて自分と同じ考えや、異なる考えがあることに気付くことができるようにする。 ○タブレット上に自分の考えを表すことが難しい児童に対しては、教師が考えを聞いてタブレット上に考えを表すことができるようにする。 ○タブレット上で、児童の考えを把握しながら、個別に声をかけ、考えを深めることができるようにし、意図的な指名へとつなげるようにする。 ○全体で議論をした後、考えが変わった児童に対して、ポジショニングを動かす時間を設けるようにする。 ○本当のことを伝えるとき、正子さんに嫌われてしまうかもしれないという気持ちがある中で、相手のことを考えて本当のことを伝える決心をした広子さんの気持ちを捉えることができるようにする。
広げる	3 これからの自分について考える ○よい友達関係をつくるときに、大切なことは何だろう。	・友達のことを考える。 ・友達のために、ちゃんと注意する。	⑩自分の利害にとらわれず、相手の立場に立って考え、助け合おうとしているか。 【タブレット・発言】 ○机間指導をしながら、あいまいな表現をしている児童に対して問い返しをし、具体的な考えを書くことができるようにしていく。
高める	4 教師の説話を聞く		○自分の今後の姿についての思いや願いをもつことができるようにする。